

回復の兆しは時期尚早？

前四半期に景況感が過去最低を記録した後、今四半期のマレーシア企業は景気拡大への立ち直りを見せた。ダン・アンド・ブラッドストリート（マレーシア）による2016年第1四半期の景況感指数（BOI）は、6指数すべてがプラスに転じる結果となった。総合指数は前四半期比で-14.5%から+4.8%に上昇したが、前年同期の+13.1%には遠く及ばなかった。

- 売上高と純利益がともに前四半期比で過去最高の上げ幅を記録した。これ自体は明るい材料ではあるが、旧正月が近づいていることによる季節的な要因である可能性がある。前年同期比ではいまだ大幅に低い状態にあり、景気の低迷が幅広く2016年に持ち越されることを示唆している。
- 一方で、販売価格は前四半期の+10.5%から今四半期は+3.5%に低下した。通貨リンギット安、増税およびインフレ率の上昇によって購買力が低下し、消費者はすでに身動きが取れなくなっているため、値上げを予定する回答者はほとんどいなかった。
- メーカーの新規受注は、前四半期の-10.7%から今四半期は8.1%とプラスに転じた。在庫は3四半期連続で低迷した後、ようやくプラスに転じ、前四半期の-8.0%から+0.5%に上昇した。
- 従業員数は、前四半期の-4.5%から今四半期は+2.0%と、再びプラスに転じた。ほとんどのセクターでは前四半期比で横ばいだったが、建設で大きく低下している。

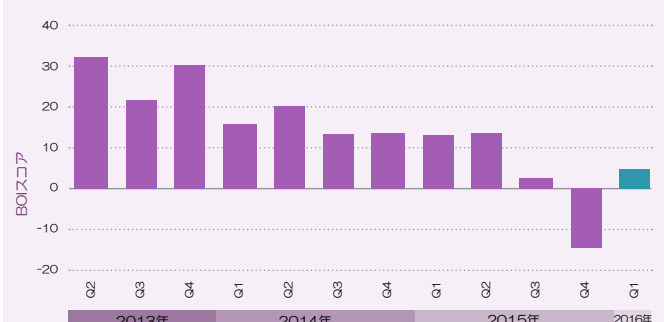
企業は旧正月シーズンに売上を伸ばす傾向にあるため、状況が持続的に好転すると確定するには時期尚早かもしれない。マレーシア経済においてはサービスが引き続き堅調に推移すると予想される一方、住宅用建物と商業用建物の両方がここ数カ月停滞していることから、かつてはバラ色だった建設セクターが苦境に立たされている。輸出の伸びに引き続き力がないため、

卸売セクターが最も悲観的となっている。

汚職スキャンダル、資本流出に関する大々的な報道、長引く原油価格の低迷、インフレ見通しの悪化、予想を下回る中国の経済成長のすべてが消費者の景況感を押し下げている。また、2016年の財政出動は限定的と予想される。高所得者への増税が実施され、全体的な財政赤字は縮小する見込みだが、インフラ支出はこれまでの発表よりも前倒しされる予定である。

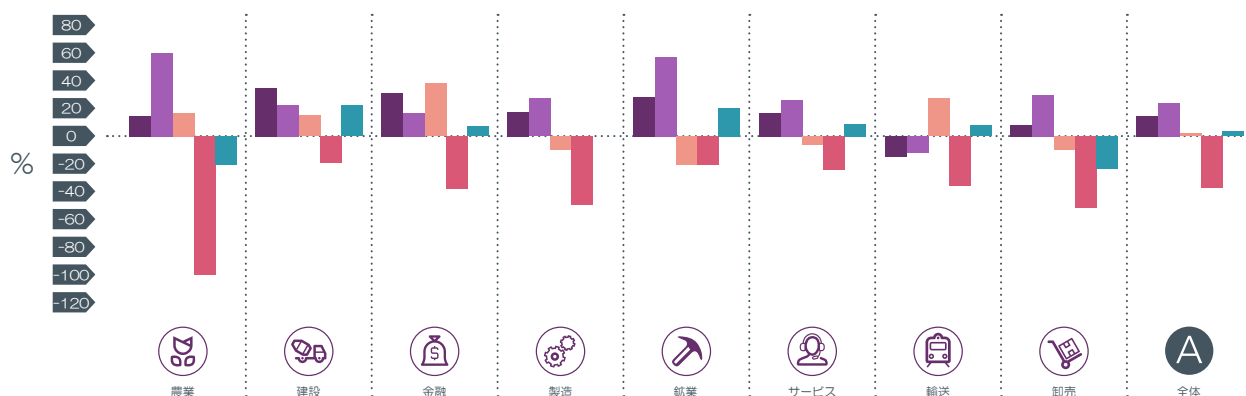
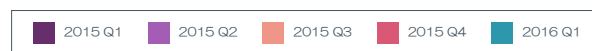
外為市場においては、マレーシアの短期流動性が脆弱であるため、世界的にリスク回避姿勢が高まるような事態に対して通貨リンギットが大きく影響を受けやすい状態になっている。原油価格が持続的に回復しない限り、リンギットが持ち直すことは考えられないが、原油価格の回復も今のところ見込めない。インフレ率は目標を上回り、上昇を続けているが、成長が鈍化していることを考えると、中央銀行は利上げに踏み切れる態勢にはない。D&Bでは2015年の成長見通しを4.5%に据え置いたが、2016年については5.2%から4.7%に引き下げた。

総合景況感指数（2013年第2四半期～2016年第1四半期）





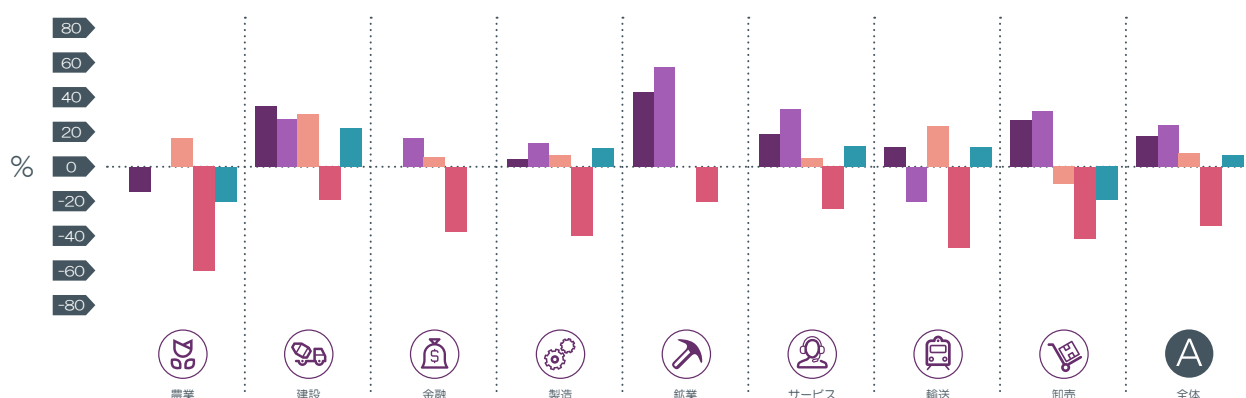
売上高



↑
40.5
前四半期比



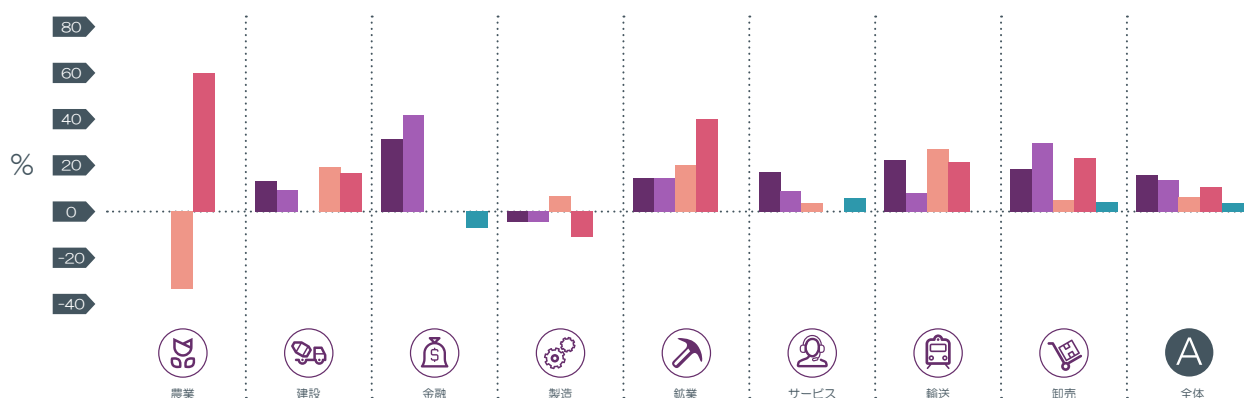
純利益



↑
40.5
前四半期比



販売価格

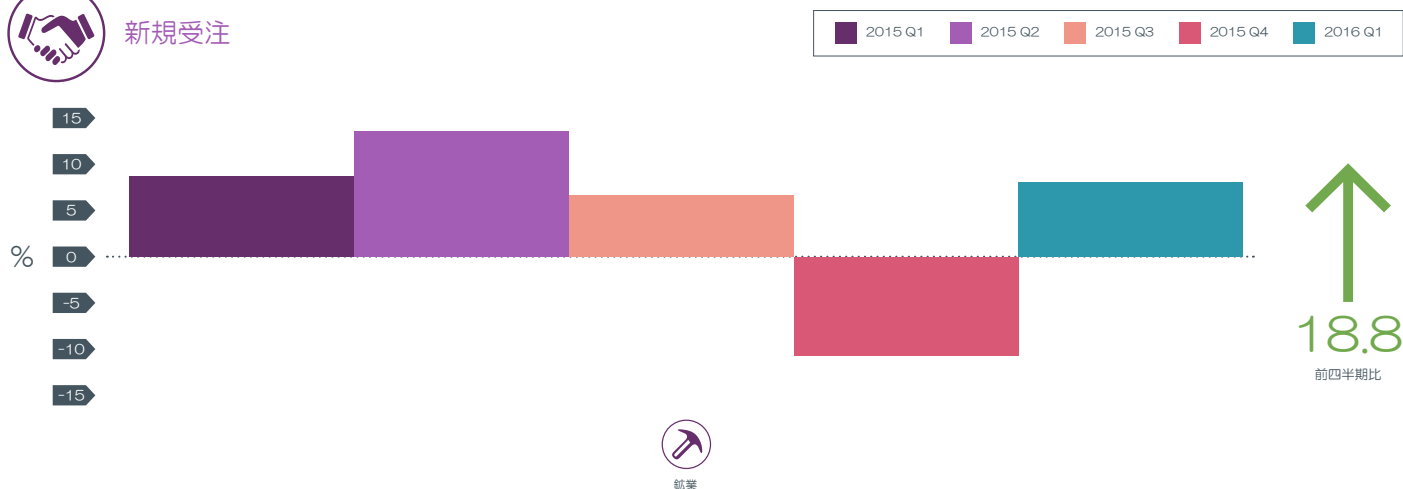


↓
7.0
前四半期比

2016年第1四半期



新規受注



在庫



従業員数

